

第4回委員会（11月28日）の議題について（案）

- 地域への人材の誘致等について
 - 人材の地域間移動・労働市場について外部のスピーカーの招請を検討中

- 地域ビジネスを支える地域的な資金循環の形成等

- 地域固有の資源の発掘・活用について
 - 成功事例の解析と方法論（事例研究）
……事例研究の内容については別紙参照

- 12月8日計画部会への検討状況報告内容の整理

事例研究候補(案)

分野	地域	事例の概要	分析の視点・ポイント	取組期間
農業・農村	高知県馬路村 【人口:1,195人】	ローカル色を前面に出したゆず加工食品(「ごっくん馬路村」「ぼん酢しょうゆ・ゆずの村」等)の開発・販売で成功し、都市・農村交流、林業・木工などの分野に取り組みを拡大。	外部人材の活用…外部プロデザイナーの起用 知識・価値創造…産地直送、村のブランド化 情報戦略…村のブランド化とPR(ムラをまるごと売る)	1980年から 約26年
	山口県阿東町 【人口:8,422人】	阿東町内に立地する船方農場は、農業を基本としつつ「0円リゾート構想」に基づく新しい形態の交流ビジネスの起業化に先駆的に取り組み、成功した。いわゆる「第6次産業(総合産業)」の事例。	知識・価値創造…第6次産業化 アイデア・技術の導入…農業経営の地域循環路線 情報戦略…都市農村交流マーケティング	1969年から 約36年間
	鹿児島県串良町 柳谷集落 【集落人口:約300人】	集落の自主的取り組みによる遊休農地を活用したサツマイモの生産、土着微生物を使った畜産排便悪臭公害の撲滅による集落環境の改善などを行い、PB芋焼酎の開発や外部との交流に発展。	問題意識の共有化…集落会議、遊休農地 外部人材の活用…銀行勤務を経てUターンした地域リーダーを 公民館長に抜擢し、各種事業を構想・展開 知識・価値創造…遊休農地での住民総出のカライモ栽培、 土着微生物の活用による畜産公害対策 組織化…協働が生んだ「自主財源」	1996年から 約9年
観光・交流	北海道釧路市阿寒町 (旧阿寒町) 【人口:6,796人】	阿寒湖温泉観光の再生を目指した住民主体のまちづくり活動を展開。活動の中核組織としてNPO法人を設立、「阿寒湖温泉再生プラン2010」を策定し、様々なプロジェクトに取り組んでいる。	問題意識の共有化…地域ビジョンの明確化 (阿寒湖温泉再生プラン2010) 外部人材の活用…専門家集団(JTB財団) 多様な主体の連携…女性の参画(まりも倶楽部)	2000年から 約5年
	長野県小布施町 【人口:11,460人】	「北斎館」をはじめとした歴史文化資源を活用し、町・民間・住民の協働による町並み修景を通して観光まちづくりを展開。	問題意識の共有化…町・民間・住民の協働による街並み修景 知識・価値創造…「北斎」という文化資源の活用、切妻・大壁造 といった伝統建築様式の活用	1976年から 約20年
	島根県江津市桜江町 (旧桜江町) 【人口:3,604人】	Uターン者と地元企業・行政が、ITベンチャーや高付加価値農業を創業し、それらが中核となって新規定住環境を整備し、都市からの人口定住を促進し、直近5年間の定住者が70世帯を数える事例。	外部人材の活用…Uターン者、前住地ネットワーク アイデア・技術の導入…独自の加工技術(桑茶)、 交流ビジネスモデル 情報戦略…ITの活用(Webマガジン)	1996年から 約9年
	高知県大月町柏島 【島人口:約530人】	漁業者、旅館・民宿、ダイバーなど多様な関係者が連携し、NPO黒潮実感センターを中心に「持続可能な里海」をキーワードとして環境学習をモチーフにまちづくりを実施。ダイビングショップの開設が相次いでいる。	外部人材の活用…高知大学研究者の参入 知識・価値創造…「海」という地域資源の価値発見、 環境学習による知識創造 多様な主体の連携…NPO「黒潮実感センター」、漁業者、 旅館・民宿、ダイバー等の連携 既存ストックの活用…廃校小学校をNPOの活動拠点に	1998年から 約7年
商業・文化	滋賀県長浜市 【人口:60,104人】	市民が設立し経営する会社による中心市街地全体の活性化事例。地域の文化的資源(黒壁銀行)の修復・ガラス館としての活用に始まり、地域コミュニティとの連携に発展して、地域で多くの起業を誘発している。	問題意識の共有化…中心市街地の衰退、自治文化(町衆) 外部人材の活用…東京芸大卒業女性をガラス館の運営に採用 アイデア・技術の導入…歴史・文化的資源(長浜城、黒壁銀行) の活用 組織化…まちづくり会社(株黒壁、ガラス館)の発足	1988年から 約18年

事例1:高知県馬路村

分野:農業・農村

取組期間:約26年

分析の視点・ポイント

外部人材の活用・・・外部プロデザイナーの起用
知識・価値創造・・・産地直送、村のブランド化
情報戦略・・・村のブランド化とPR
(ムラをまるごと売る)

取組概要

デパートの物産展への積極的出店、それら顧客をターゲットにした産直によるリピーターの確保、独自の顧客ネットワークづくりに昭和60年代から着手。「村をまるごと売る」をコンセプトにローカル色を前面に出した情報発信を展開する。外部人材の活用による特色あるパッケージデザインの採用、ローカルのTVやFMを活用した情報発信などにより、ゆず加工食品(「ごっくん馬路村」「ぽん酢しょうゆ・ゆずの村」等)の開発・販売で成功。

「うまじファン」をターゲットに都市・農村交流、林業・木工などの分野に取り組みを拡大している。



同一の外部デザイナーによるデザインが施された村をブランド化する商品類

地域概況

馬路村は高知県と徳島県の県境に位置し、村の面積の96%を山林が占める典型的な山村である。主な産業は、林業とゆずの生産となっており、加工食品や新しい木工品等の開発により、林業と農業の再生に取り組んでいる。

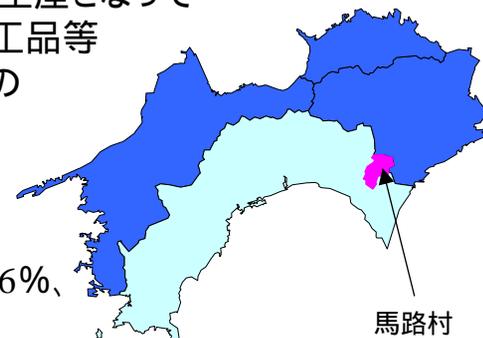
人口:1,195人

産業別就業人口構成

第1次:20.4%、第2次:29.6%、

第3次:50.0%

財政力指数:0.14



馬路村

位置図

事例2：船方農場(山口県阿東町)

分野：農業・農村

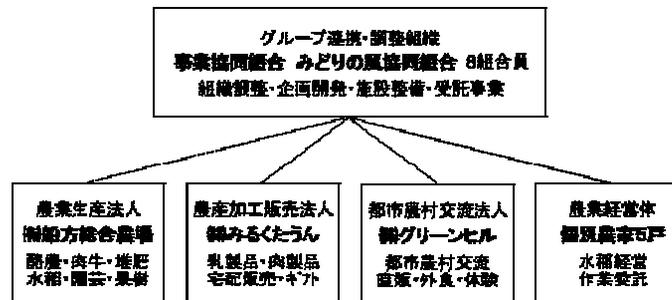
取組期間：約36年

分析の視点・ポイント

知識・価値創造・・・第6次産業化

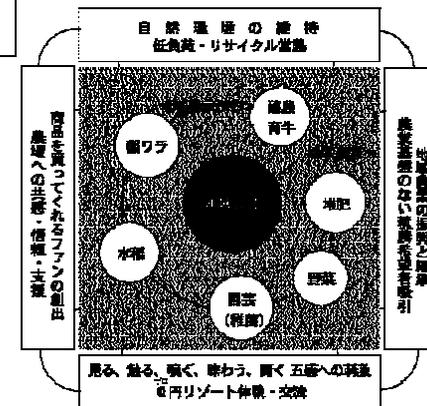
アイデア・技術の導入・・・農業経営の地域循環路線

情報戦略・・・都市農村交流マーケティング



生産の1次産業×加工・販売の2次産業
×交流(サービス)の3次産業=6次産業

船形グループの構成



船方式複合経営

取組概要

1969年に新規就農者を受け入れる総合農場を5名で設立したことを発端に、交流事業を通じた消費者の信頼獲得に立脚し、地域・都市との共生を目指した地域循環路線を理念とした農業経営を展開している。

こだわりの農業経営は、稲わらと堆肥の交換協定、消費者とともに出資した法人設立、無駄な投資をせずに料金もとらない「0円リゾート構想」を掲げるなどの特徴を有し、既存の地域コミュニティ経営から、新しい経営のあり方を模索する内発的な取り組みであり、農業を教育の場とする活動の先駆けでもある。

地域概況

阿東町は、山口県の北東部に位置し、平均標高が300mの中山間地域である。主な産業は、農業であり、冷涼な気候を利用した稲作や、西日本最大の観光リンゴ園が立地している。

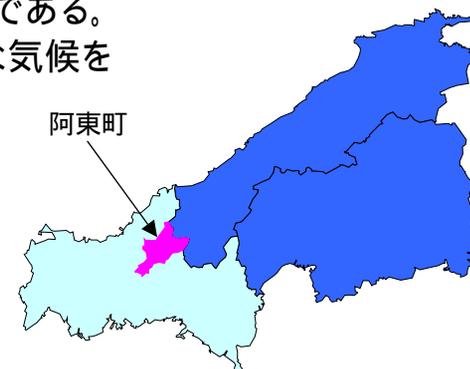
人口：8,422人

産業別就業人口構成

第1次：30.7%、第2次：23.6%、

第3次：45.4%

財政力指数：0.22



位置図

事例3：鹿児島県串良町柳谷集落

分野：農業・農村

取組期間：約9年

分析の視点・ポイント

問題意識の共有化・・・集落会議、遊休農地
外部人材の活用・・・銀行勤務を経てUターンした
地域リーダーを公民館長に抜擢し、各種事業を構想・展開
知識・価値創造・・・遊休農地での住民総出の
カライモ栽培、土着微生物の
活用による畜産公害対策
組織化・・・協働が生んだ「自主財源」

取組概要

50歳代の新しい区長の就任後、柳谷集落民会議を設置。集落の自主的取り組みによる遊休農地を活用したカライモの生産、土着微生物を使った畜産排便悪臭公害の撲滅による集落環境の改善などに取り組む。カライモ栽培や土着菌を含む有機肥料の販売によって生み出された「自主財源」を活用し、P B 芋焼酎の開発や農村レストラン経営など外部との交流活動を展開している。

また、「自主財源」は、集落内の独居老人世帯などを対象にした緊急警報装置（介護）や煙感知器の設置、全戸への防犯ベル設置や集落の児童・生徒を対象にした「寺子屋」の講師人件費に充てるなど地域福祉、教育といった分野にも活用されている。



住民総出のカライモの植え付け

自前の救急警報装置



地域概況

鹿児島県串良町は、県東部の大隈半島の中央部に位置し、面積の大半を火山灰が堆積したシラス台地が占める。畑地かんがいによるカライモ、みかん栽培のほか、畜産に取り組む農村地域となっている。

人口：13,613人

産業別就業人口構成

第1次：30.6%、第2次：22.6%、

第3次：46.6%

財政力指数：0.29



事例4：北海道釧路市阿寒町(旧阿寒町)

分野：観光・交流

取組期間：5年

分析の視点・ポイント
問題意識の共有化・・・地域ビジョンの明確化
(阿寒湖温泉再生プラン2010)
外部人材の活用・・・専門家集団(JTB財団、
日本エアシステム)
多様な主体の連携・・・女性の参画
(まりも倶楽部)



商店街の歩道を活用したオープンカフェ



周辺駐車場と商店街を結ぶ巡回バス

取組概要

1999年より減少傾向に転じた入込客数に危機感を感じ、地域を支える観光産業の再生に着手。

全国的傾向である個人化・グループ化とそれに伴う観光客のニーズの多様化に応え、かつ地域住民にも魅力ある地域づくりを目指し、NPO法人や女性有志の団体を中心に、多様な主体を巻き込んだ観光再生とまちづくりの一体化のための実践的な活動を展開している。

外部の専門家集団に加え、広域的な連携も視野に入れて、役割分担が明確になった推進体制も特徴的である。

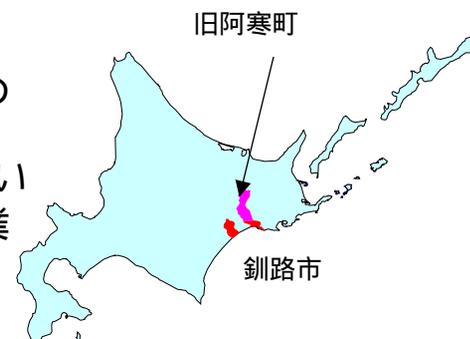
地域概況

釧路市阿寒町は、道東エリアの中心的な観光資源の一つである阿寒湖を有しており、200万人近い観光客が訪れる観光が中心産業となった町である。

人口：6,796人
(合併した釧路市全体では約20万人)

産業別就業人口構成
第1次：10.8%、第2次：16.0%、
第3次：73.2%

財政力指数：0.21



位置図

事例5：長野県小布施町

分野：観光・交流

取組期間：約20年

分析の視点・ポイント

問題意識の共有化・・・町・民間・住民の協働による街並み修景

知識・価値創造・・・「北斎」という文化資源の活用、切妻・大壁造といった伝統建築様式の活用



特産品の栗の木のブロックを敷きつめた「栗の小径」



北斎館

取組概要

地域の歴史文化資源を活かした観光まちづくりの事例の代表的な成功事例。

小布施のまちづくりは、新旧住民の共通のシンボルとして「北斎」に着目、町内に散在する北斎の肉筆画を集めた「北斎館」という文化施設の整備が一つのきっかけ。これに続き、町内の老舗栗菓子店らによる景観に配慮した店舗、美術館づくり、これらの動きに連動した「町並み修景」という独自の手法が構築される。住民参加による活動の結果、景観創造に対する住民のステewardシップ(管理者意識)を育む。また、活動の持続化のために、住民と訪問者の交流を促進する仕掛けとして、自宅庭の開放、文化サロンの運営なども展開されている。

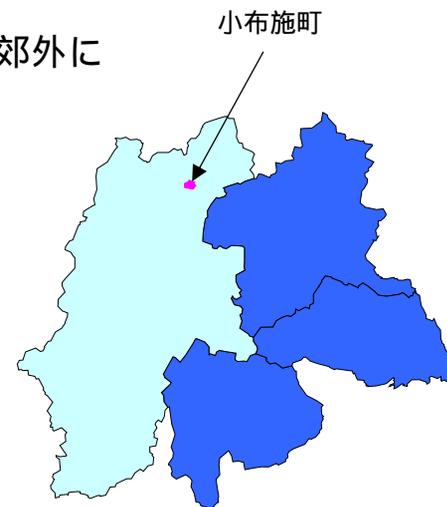
地域概況

小布施町は、長野市の郊外に位置する平坦な農村地帯。地域住民にとって誇りとなるまちをつくること、住民の暮らしぶりを観光資源とする発想が功を奏し、年間120万人を超える人々が訪れる町となっている。

人口：11,460人

産業別就業人口構成
第1次：23.6%、第2次：31.9%、
第3次：44.5%

財政力指数：0.33



位置図

事例6：島根県江津市桜江町(旧桜江町)

分野：観光・交流

取組期間：9年

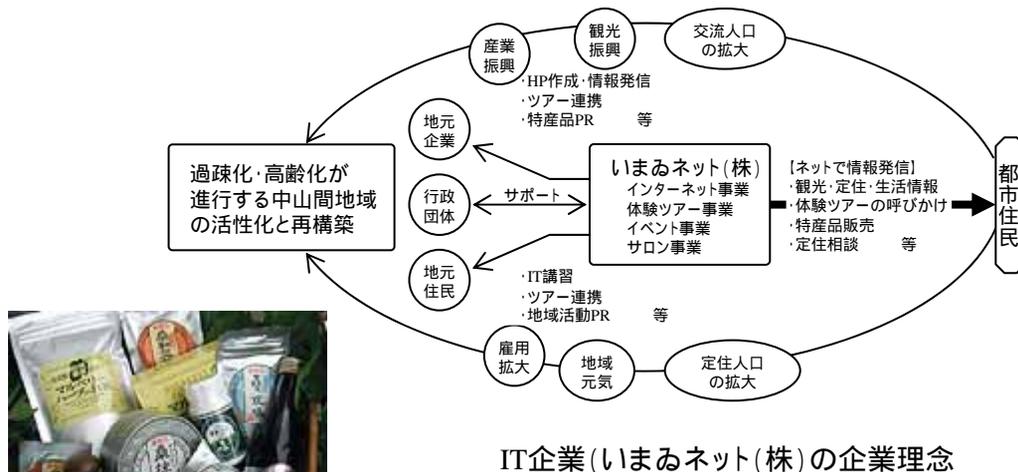
分析の視点・ポイント

外部人材の活用・・・UIターン者、前住地ネットワーク
 アイデア・技術の導入・・・独自の加工技術（桑茶）、交流ビジネスモデル
 情報戦略・・・ITの活用（Webマガジン）

取組概要

夫のUターンに伴った女性と地元有力建設会社がIT活用型情報発信・交流促進事業を展開するベンチャー企業を創設。田舎暮らしに憧れた移住者が開発した健康食品（桑茶）のPR等、この企業が媒介となり、観光交流分野における特産品開発や、体験ツアーの商品化など、新しい仕事づくりに取り組むU・Iターン者やU・Iターン希望者を支援するネットワークが形成された。

こうした新たな職づくり等に対する地域側の支援環境が整うこと等で、直近5年間では70世帯を超える新規の定住が実現している。

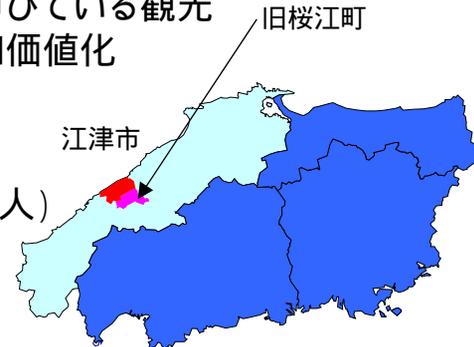


桑から生まれた商品の数々

地域概況

江津市桜江町は島根県のほぼ中央部、中国山地の北斜面に位置し、町内を江の川が貫流する。米や養蚕で栄えた農業も従業者数が減少しているが、近年伸びている観光産業との連携など、農産物の高付加価値化に取り組んでいる。

人口：3,604人
 (合併した江津市全体では約2.8万人)
 産業別就業人口構成
 第1次：14.9%、第2次：34.6%、
 第3次：50.5%
 財政力指数：0.12



位置図

事例7:高知県大月町柏島

分野:観光・交流

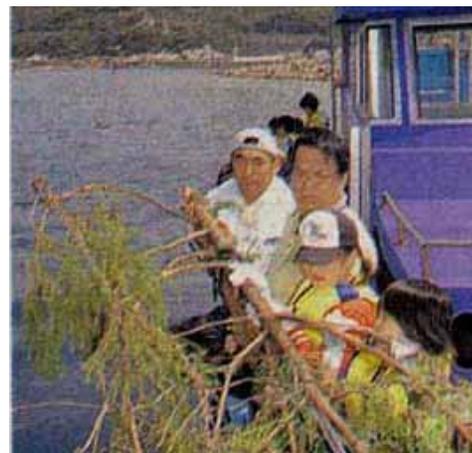
取組期間:7年

分析の視点・ポイント

外部人材の活用・・・高知大学研究者の参入
知識・価値創造・・・「海」という地域資源の
価値発見、環境学習
による知識創造

多様な主体の連携・・・NPO「黒潮実感セン
ター」、漁業者、旅館・
民宿、ダイバー等の連携

既存ストックの活用・・・廃校小学校をNPOの活
動拠点に



アオリイカの産卵礁を投げ入れる子供達



ダイバーらによるリーフチェック

取組概要

NPO「黒潮実感センター」を中心に、漁業者、ダイバー、旅館・民宿等の多様な関係者が連携し、「持続可能な里海」をキーワードに環境学習をはじめとした交流が進んでいる。

島外から来たいわゆる「よそ者」である海洋研究者が、地域内住民では気付かなかった「海」という地域資源に価値を見出し、これを契機に取組が発展した点が本事例の特徴である。

NPOの活用拠点には廃校が活用されている。また、高知大学との連携が生まれ、研究者・学生等の研究活動にも貢献。この数年間でダイビングショップが17軒できる等の地域活性化効果も現れている。

地域概況(データは平成12年値)

高知県の西南端に位置する柏島。日本の温帯域で1・2位の規模を誇るサンゴ群、約1,000種という日本一の魚種など、豊かな海に囲まれている。島の主な産業は漁業。

島人口:約530人(町:6,956人)

産業別就業人口構成

第1次:32.5%、第2次:22.9%、
第3次:44.5%

財政力指数:0.13



アオリイカの産卵礁を投げ入れる子供達

ダイバーらによるリーフチェック

事例8：滋賀県長浜市

分野：商業・文化

取組期間：約18年

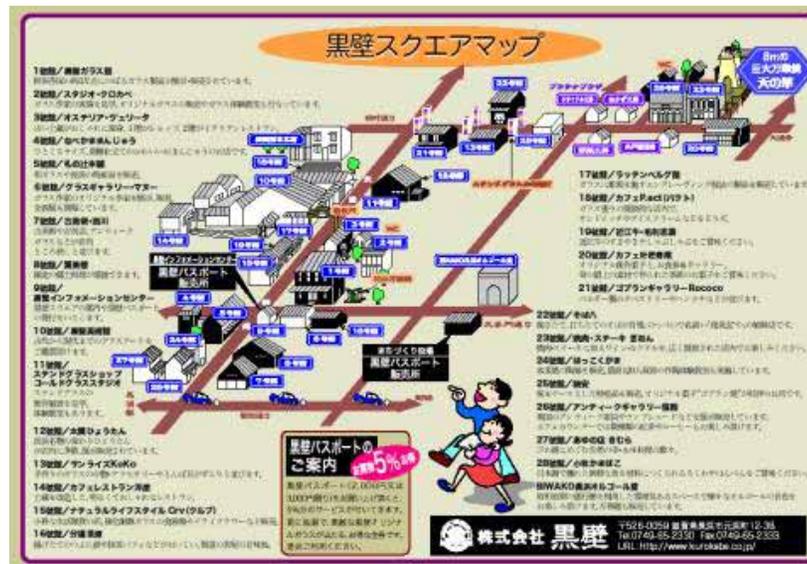
分析の視点・ポイント

問題意識の共有化・・・中心市街地の衰退、
自治文化(町衆)

外部人材の活用・・・東京芸大卒女性をガラス館の運営に採用

アイデア・技術の導入・・・歴史・文化的資源
(長浜城、黒壁銀行)
の活用

組織化・・・まちづくり会社(株)黒壁、ガラス館)
の発足



「黒壁」のまちなみマップ

取組概要

市民が設立し経営する会社による中心市街地全体の活性化事例。

'80年代以降のバイパス整備や大規模店舗の進出に対する中心市街地の衰退に対する「町衆」の危機感の高まりを背景にまちづくりを模索する動きが芽生える。

市民の浄財による長浜城の再建を契機に、歴史景観資源へ再評価の気運が高まる。

このような背景の中で、地域の文化的資源(黒壁銀行)の修復・ガラス館としての活用などに取り組む、市民が経営に参画するまちづくり会社が発足、地域コミュニティとの連携に発展して、地域で多くの起業を誘発している。

地域概況

長浜市は、琵琶湖の北東岸に位置し、秀吉が築城するなど地域の中心性を持つ地域となっている。

縮緬産地としての歴史を有する一方で、全国初の4年制バイオ大学を中心に研究施設を誘致し、バイオ産業の形成に力を入れている。

人口：60,104人

産業別就業人口構成

第1次：2.3%、第2次：42.6%、

第3次：53.0%

財政力指数：0.65



長浜市
位置図